



児童の体験に基づく地図指導（3・4年）

— 絵図から入るとよくワカル！ —

愛知教育大学助教授 寺本 潔



藤前干潟でめずらしい鳥が見られそうだ、行ってみたいな

地形のちがいに応じたくらし方を4年生で学習するんだよ



遠足でこのあいだ行った港だね

渡り鳥って外国にまで飛んでいくんだよ。地図帳でその外国を調べてみよう



私たちの町を流れている有名な川だ。くわしい地図で上流までたどってみよう

なんと言っても鳥の眼になったみたいで面白いのが、絵図（鳥瞰図）です。愛知県の児童という設定で、地図帳に掲載されている「水辺の環境とくらし—輪中地域と河口付近—」（p.32）を元に効果的な活用法について述べてみましょう。

この絵図は愛知県や三重県に住んでいる児童なら、身近に感じることでしょ。名古屋の街も描かれていますし、遠足や社会科見学でしばしば訪れる木曾三川や名古屋港が絵図の中に入っているからです。つまり、行ったことがあるという体験に基づいて地図が理解されているといえます。地図帳の中の「都道府県を調べるくわしい地図」や「絵図」の多くは、こういった体験を思い出す際の地名や地形が載っているはず。そこに指導のポイントがあります。

①この地図の中に行ったことのある場所がありますか？

指旅行で確かめてみましょう。知っている地名は見つかりましたか？

②絵図は空から見たように描かれています。

地形のようすがわかりますか？土地の使われ方も調べてみましょう。

3・4年の児童は「行ったことがあるよ」と自慢しがります。そこを追究のきっかけとして地図帳に親しませたいものです。

行ったあ！

